

CASBEE-建築(新築)2016年版

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.0	
Q1 室内環境								3.0	
1 音環境				4.0	0.15	3.2	1.00	3.5	
1.1 室内騒音レベル		—		3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音		住戸の開口部にはT-2等級のサッシを使用		5.0	0.50	3.5	0.50		
1 開口部遮音性能		—		5.0	1.00	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能		—		3.0	-	2.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		3.0	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		遮音等級LH=50のスラブを使用		3.0	-	4.0	0.20		
1.3 吸音		—		1.0	-	1.0	-		
2 温熱環境				2.4	0.35	3.0	1.00	2.7	
2.1 室温制御		—		3.0	0.50	3.0	1.00		
1 室温		—		3.0	0.63	-	-		
2 外皮性能		Low-E複層ガラスの採用		3.0	0.38	3.0	1.00		
3 ゾーン別制御性		—		3.0	-	-	-		
2.2 湿度制御		—		3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		—		1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				2.7	0.25	2.7	1.00	2.7	
3.1 昼光利用		—		3.0	0.30	2.4	0.35		
1 昼光率		—		3.0	0.60	3.0	0.50		
2 方位別開口		—		-	-	1.0	0.30		
3 昼光利用設備		—		3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策		—		2.0	0.30	3.0	0.35		
1 昼光制御		—		2.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度		—		3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		—		3.0	0.25	3.0	0.29		
4 空気質環境				3.6	0.25	3.6	1.00	3.6	
4.1 発生源対策		—		4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		—		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気		—		3.0	0.40	3.0	0.38		
1 換気量		—		3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		—		3.0	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		—		3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理		—		-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視		—		3.0	-	-	-		
2 喫煙の制御		—		-	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.0	
1 機能性				3.0	0.40	2.8	1.00	2.8	
1.1 機能性・使いやすさ		—		3.0	0.40	3.0	0.60		
1 広さ・収納性		—		-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		—		3.0	-	3.0	1.00		
3 バリアフリー計画		—		3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		—		3.0	0.30	2.5	0.40		
1 広さ感・景観		住戸リビング天井高さ2.6m以上		3.0	-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		—		-	-	-	-		
3 内装計画		—		3.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理		—		3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		—		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		—		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振		—		3.4	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		免震装置を設置		5.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		—		2.6	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔		—		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		—		3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		—		3.0	0.20	-	-		
3 電気設備		—		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		—		3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		—		3.0	0.20	-	-		
3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.6	1.00	3.3	
3.1 空間のゆとり		—		-	-	4.2	0.50		
1 階高のゆとり		各階で3.0m以上の階高を確保		3.0	-	5.0	0.60		
2 空間の形状・自由さ		—		3.0	-	3.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり		—		3.0	-	3.0	0.50		
3.3 設備の更新性		—		3.0	1.00	-	-		
1 空調配管の更新性		—		3.0	0.20	-	-		

	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	3.0
1	生物環境の保全と創出		—	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		—	3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				—	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	2.9
1	建物外皮の熱負荷抑制		角住戸では断熱材の厚さを35mmとした。	3.0	0.20	-	-	3.0
2	自然エネルギー利用		—	2.0	0.10	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化		ZEH-M Oriented、ZEH Orientedに適合する計画とした。	3.0	0.50	-	-	3.0
4	効率的運用		—	3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		—	-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	-	-	-	
	集合住宅の評価		—	3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	2.9
1	水資源保護		—	3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1	節水	—	3.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	—	3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		—	2.9	0.60	-	-	2.9
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	1.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	2.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装材:(躯体+軽鉄+仕上)、一部にOAフロアを使用	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		—	3.2	0.20	-	-	3.2
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避	—	3.3	0.70	-	-	
	1	消火剤	二酸化炭素消火設備	4.0	0.33	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	—	3.0	0.33	-	-	
	3	冷媒	CO2冷媒冷凍機	3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	2.9
1	地球温暖化への配慮		想定耐用年数を60年とした。	3.0	0.33	-	-	3.0
2	地域環境への配慮		—	2.9	0.33	-	-	2.9
	2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制	—	2.7	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		—	3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止	—	3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制	—	3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	1.0	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制	—	3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	3.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称)赤坂一丁目プロジェクト

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	-		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0	-	-	○	○	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0	-	-	-	-	○	○	-	○	○	-	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0	-	1.0	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0	-	-	1.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0	-	1.0	2.0	3.0	2.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-

LR1 エネルギー																
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル																
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無				-												
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	-	1.0											
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-										
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-										
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-															
LR3 敷地外環境																
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	2.0	1.0	-				
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	-	1.0	-	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	-	-		1.0	-							
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-												
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		1.0	1.0												
主な指標																
Q1 室内環境																
2.1.3 外皮性能																
窓システムSC 0.4 窓の日射熱取得率(η) 0.3																
U値(W/m2K) 窓システム 3.6 屋根 0.6 外壁 0.6 床 0.7																
住戸部分 窓システムU値 3.6 外皮UA値 0.6 ηAC - ηAH -																
屋光率 1.5%																
自然換気有効開口面積率 3.3%																
Q2 サービス性能																
1.1.1 広さ・収納性																
執務スペース 6.0㎡/人 病床 8.0㎡/床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡																
1.1.2 高度情報通信設備対応																
コンセント容量 30.0 VA/㎡																
1.2.1 広さ感・景観																
天井高 2.6 m																
1.2.2 リフレッシュスペース																
リフレッシュスペース % レストスペース %																
2.2.1 躯体材料の耐用年数																
想定耐用年数 60 年																
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																
想定必要間隔 20 年																
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																
想定必要間隔 0 年																
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔																
想定必要間隔 0 年																
3.1.1 階高のゆとり																
階高 3.25~4.1 m																
3.1.2 空間の形状・自由さ																
壁長さ比率 30.0%																
3.2 荷重のゆとり																
床荷重 4000 N/m2																
Q3 室外環境(敷地内)																
1 生物資源の保全と創出																
外構緑化指数 30% 建物緑化指数 0%																
3.2 敷地内温熱環境の向上																
空地率 59% 水平投影面積率 21% 地表面対策面積率 30% 舗装面積率 16%																
LR1 エネルギー																
1 建物外皮の熱負荷抑制																
BPI/BPI _m 0.97 断熱等性能等級 等級3 相当																
2 自然エネルギー利用																
自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡																
採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0%																
通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0%																
3 設備システムの高効率化																
BPI/BPI _m 非住宅 1.00 住宅 1.00 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW																
LR2 資源・マテリアル																
1.2.1 雨水利用システム導入の有無																
雨水利用率 0.0%																
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用																
特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -																
2.5 持続可能な森林から産出された木材																
使用比率 5.0%																
3.2.1 消火剤																
オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1																
3.2.2 発泡剤(断熱材等)																
オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1430																
3.2.3 冷媒																
オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 8																
LR3 敷地外環境																
2.2 温熱環境悪化の改善																
見付面積比 181% 隣棟間隔指標R _w 0.34																
地表面対策面積率 13.7% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%																
見付面積S _b 2.043㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 57.2 m 基準高さH _b 19.64 m																
緑地 200㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡																